

平成31年度 修文女子高等学校 学校評価

【教育方針】

- 全人教育・文武両立  
教育の根底となる哲学「どう生きていけば幸せになれるのか」の追求
- 1 学 習
    - ・学習に打ち込むことを通して生きる力を養い、知的で豊かな人間性を育む。
  - 2 課 外 活
    - ・学校行事を通して絆を深め、人間関係の大切さを学ぶ。
    - ・部活動を通してくじけない心を育て、たくましい精神力を養う。
  - 3 社 会 性
    - ・社会生活におけるルールや礼儀を体得し、人間としての品格を備える。
    - ・地球環境について正しい認識を持ち、環境保全活動を実践する。

【目指す学校像】

魅力と活力に満ち、地域に根づく信頼される学校

【目指す生徒像】

学習指導、進路指導の充実により生徒の「学びの構え」と、生活指導、部活動指導等の充実により「生きる構え」を育み、心身ともに逞しく「生き抜く力」を身につけた品格ある生徒を育成する。

【学校生活のモットー】

「元気に！ 明るく！ さわやかに！」

【今年度の重点目標】

- 1 社会人となるための基本を身につけさせる
- 2 学習に対する意欲を喚起し、学力を向上させる ～学力の保証～
- 3 心の教育の充実・自立心を育てる ～心の学校～
- 4 防災教育を推進する ～安心・安全な学校～
- 5 地域の期待にこたえ、信頼される学校をつくる ～開かれた学校～

※達成度は4段階評価  
4:大変よくできた。  
3:まあまあできた。  
2:あまりできなかった。  
1:全くできなかった。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
普通科	基礎学力の定着	・毎朝の小テスト(漢字・英語)の実施 ・家庭学習の充実に向けた継続的な仕掛け	・小テストを毎朝(定期考査当日を除く)行う。合格点は8割とし、それに満たない得点の生徒には追試等を行って、より多くの生徒が英語と国語の基本的な知識を身につけられるようにする。	2・3年生においては、毎朝の小テストに対する準備等がしっかりと習慣化しており、漢字の読み書きや英単語についても一定の成果が見られている。1年生は、まだ一部に取組みの弱い状況があるので、引き続き粘り強く指導にあたっていきたい。	生徒と教員の粘り強い取り組みによって、小テストに対する準備や復習など、基本的な学習習慣をほとんどの生徒が身につけることができた。	3	「基本的な学習習慣」を「小テストの準備のみ」と狭く考えるのではなく、生徒一人一人の学びを支える「基本的な学習習慣」の確立を図ってきたい。
	応用力の養成	・習熟度別クラス編成による授業の実施(国数英) ・学力や進路希望に応じた補習の実施	・それぞれの学力に応じた適切な指導を行うとともに、よりレベルの高い授業、補習を実施することで、生徒の(客観的に計測できる)学力を引き上げる。	進路課における進路補習と運動させながら、生徒の学力の引き上げにむけて粘り強い取り組みができています。年明けのセンター試験や私大の一般入試、国公立大学の入試にむけて、引き続き指導に努めたい。	一般入試による合格者はあったが、惜しくも合格に届かなかった生徒も一定数いたことから、習熟度別の授業展開や補習の内容について、さらなる改善が必要であると考える。	2	生徒の「やる気」を引き出す指導はまずまずできているが、それに見合うだけの力をつけさせていくことが今後より一層重要になってくると考える。
	視野の拡大	・進路行事の実施時における振り返りの徹底	・自身の適性や進路希望について、年間を通じて絶えず思考を深めさせる。	志望校の決定に際して、一部では情報過多になってしまっている現状がある。生徒と共有する情報を精査しながら、よりよい進路指導、キャリア教育の形を今後も模索していきたい。	志望校決定の際に、目先のことに気を取られてしまうことがままあった。1年生からの継続的な進路指導の重要性を痛感している。	2	「最後までやりきる心」を育てる進路指導を1年生から継続的に実施することで、進学に対するイメージをさらに深化、拡充させたい。
	可能性の追求	・模試の積極的受験の奨励と対策の実施	・自らの能力を過大評価、過小評価することなく、目的に向かって一心に学習に取り組む姿勢を育む。	進路課における進路補習(志クラス)の取組みとも関わらせながら、模試の受験への意識を高めている。今後その姿を、1・2年生へ伝えていけるよう工夫したい。	進路検討会のおかげもあり、模試のスコアや志望校判定に多くの生徒、教員が意識を向けるようになってきた。	3	来年度以降も、引き続き進路課と協力しながら、生徒の学力の客観的な判定を心がけ、志望校に関する指導に活かしていきたい。
情報会計科	積極的な資格取得と進学の拡充	・夏季補習、検定直前補習、朝補習、進路指導の充実	・3年間の検定取得に組織的に取組み、日本商工会議所主催の検定合格を目指す。 ・資格を活用した入試方式の紹介、および指導を充実する。	夏季補習・検定直前補習・朝補習に対して、ただ参加するだけではなく目的意識をもって意欲的に取組めた。また、センター試験において簿記を受験するなどの新しい試みにも期待したい。	今年度初めて3年生在籍者全員が技術顕彰を受領し、全商検定1級を取得できた。組織的に指導できた結果だと考えている。日商簿記検定も受検者全員が合格し、良好である。	3	次年度も在籍者全員受領を目指し、日商簿記検定も受検者を拡大させながら、検定を利用した入試を更に推進していきたい。
	即戦力となる人材の育成	・始業前着席、授業準備の徹底 ・外部イベントへの積極的な参加	・コミュニケーション能力の伸長を念頭に置き、きめの細かい指導をする。 ・外部イベントにおいて商業の実践を通して、生徒の主体性を育成する。	夏休みに全学年を対象に、名古屋学院大学の先生に出張講義を依頼した。簿記を学ぶ意義や新たな進路(税理士や会計士)への興味につなげた。	新型コロナウイルスの影響で、企画していた行事(一宮市消費生活フェア、東海財務局出張講義)を中止せざるを得なかった。	2	外部行事への参加を更に積極的に進めながら、こういったものを通してコミュニケーション能力の伸長も同時に図りたい。
家政科	基本的な生活習慣の定着	・定期的な個人面談の実施 ・保護者との連携強化	・生徒の変化を見逃さず、的確な指導を行い、考えて行動できる力を育む。	定期的な個人面談を実施し、内容に応じて保護者と連絡を取ることができた。また、問題が起きた場合は迅速に対応することができた。	生徒指導では迅速に対応できたが、上手いかなかった時もあった。しっかりと問題点を洗い出し、今後に活かしたい。	3	早期に問題が解決できるように、生徒、保護者、教職員間のコミュニケーションを密に取ってきたい。
	基礎学力の定着	・家庭学習ノートの実施 ・徹底反復学習で学習コンクールの小テストを実施	・毎日家庭学習ノートを提出させ、学習習慣を確立する。 ・学科全体で小テストを実施することにより、基礎学力の更なる伸長を図る。また、不合格者には追試を実施する。	学習コンクール対策として小テストを実施し、第1回より第2回の方が不合格者が減少した。	第3回も不合格者が一番少なく、真剣に学習コンクールに取り組むことができた。特に2年生は、常に2位と3位になり、意欲的に取り組んでいた。	3	基準点に達しない生徒が0になるように、今後も熱心に指導していきたい。
	家庭科検定の合格率の向上	・検定補習の実施 ・徹底反復学習に検定問題を実施	・家政科生徒としての自覚を持たせ、調理と被服の基礎的な技術と知識を身につけさせる。	家庭科検定取得に向けての意識づけができ、補習が必要な生徒には、授業後などに実施することができた。	調理検定1級が5名、保育検定4種1級が2名合格した。これは根気良く指導した成果である。	3	上位級取得者をさらに増やせるように指導していきたい。
食物調理科	調理技術と知識の習得	・調理師としての自覚の涵養	・個人面談を定期的に行い、一人ひとりの特性の把握に努め、調理師としての自覚を育てる。	個人面談を定期的に行い、生徒の些細な変化を見逃さない努力ができています。また、生徒の進路実現の達成に向けてきめ細かい進路指導ができています。	早期に問題点を発見し、迅速に対応することができた。その際、保護者にも連絡をし、学校と家庭が協力して生徒の成長を見守ることができた。	4	より一層、生徒の変化を見逃さない指導を継続したい。
	地域に根づく学科	・地域活性化事業への参加 ・地元企業との商品共同開発	・一宮市にちなんだメニューを考案する。継続的に商品化できるように地元企業に働きかける。 ・地域の方々と接することで、コミュニケーション能力を育てる。	「親子クッキング教室」、「おもてなしモーニングcafé」、「職業体験フェスタ」といった恒例のイベントに継続的に参加できている。また、新規事業として「お菓子フェア」、「きらめきフェス2019」といった地元活性化事業に参加できた。	植樹祭や138ひつじプロジェクトへの参加、親子クッキング教室の開催、セブイレブやイオンモール木曾川店との連携企画開催など、一定の成果を収めた。	3	新しい企画を立案し、既存の企画におけるサブイテラティブアップができるように、日頃の教育内容の拡充をより一層深める。また、特別講座を開催し、調理師としての自覚を涵養していきたい。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
総務課	防災に対する取組みの推進	・防災教育、安全教育の推進	・危機を予防するために、報告、連絡、相談を徹底し、安全点検や教員研修を実施し、安全に行動できる知識や能力を育成する。	1年生に対して、外部講師による「地震への備え」についての講話を実施した。また、防災訓練を実施したが、迅速に災害を防ぐために避難場所を再検討したい。	全国各地で度々地震が発生している。学校生活時に叱咤の行動がとれるように指導する必要がある。	3	あいちシェイクアウト訓練・防災訓練・防災講話・消火栓使用講習会等を実施していく。
	PTAや同窓会との連携の推進	・PTA活動の主体的な取組みへの支援 ・同窓会などの情報発信	・メール配信システムやホームページを通してPTA活動の取組みを紹介し、協力連携を図る。	文化祭でのPTAリサイクルバザーや交通安全指導を実施したが、メール配信システムを通しての協力までには至っていない。	PTAや同窓会活動の主体的な取組みには至らなかった。 高齢のため同窓会の役員の交代希望の意見が出ている。R3年度検討したい。	2	新型コロナウイルスの関係でメール配信システム登録を生徒にさせたが、保護者にも登録もしていただき、行事等の案内をしたい。
教務課	学力の向上	・基礎学力の定着と応用力の養成	・学習コンクールで60点以上、基礎力診断テストでD2以上を目指し、入試に対応できる運用能力を身につけさせる。	土曜日補充を実施することや、基礎学力定着に向けた教員・生徒の意識の向上が個々の学力定着につながっている。	学習コンクール・基礎力診断テスト3共に、低得点者の割合が極めて低かった。	3	次年度は全員が目標点を取るように、意識向上を含め実施していく。
		・英語教育の充実	・本校での英語活動を通して興味関心を抱かせ、英語力向上だけでなく、積極的に活用できるようにする。	オンライン英会話やALTの授業、パフォーマンステストを授業で含めることで、会話への積極性が身につくつある。	ハワイ研修、オンライン英会話、ALTの授業、パフォーマンステストを実施することで、積極的に英語を活用・運用する環境を構築できた。	3	イングリッシュキャンプを取入れ、さらなる英語運用の機会を構築していく。
	・授業規律の確立と授業力の向上	・始業や終業のけじめと挨拶を徹底する。 ・ICTやアクティブラーニング型の授業を取入れ、生徒の学習効果の向上に努める。	チャイムと同時に授業開始がまだ十分とは言えない。また、中学校・保護者・教員対象の研究授業を実施することで、学習意欲を高める授業力向上に努めた。	年間を通してチャイムと同時に授業開始がまだ十分とは言えない。また、教員間の授業観察も全員が実施までには至らなかった。	2	授業始業の時間厳守と教員間の授業観察を徹底して行う。	
	図書館の利用促進	・読書環境の整備	・良質な読書環境を整備する。 ・図書館を授業、特別活動等で計画的に利用し、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。	図書館第一学習室を利用した授業・特別活動等が定期的に行われている。 図書委員会による推薦図書を紹介した前期企画展や委員会だよりの発行により、読書意欲を喚起した。	図書館の第二学習室に個人学習用机が11セット配備されたことで、学習環境がより充実した。 図書委員会だより(Lメール)は9号まで発行し、後期企画展は「オンラインブック今昔～昔の巻～」というテーマで展示・発表を行った。	3	読書・学習環境をより充実できるようにする。 図書委員会の活動年間を通じて計画し、主体的に活動できるようにする。
生徒課	品位ある生徒の育成	・正しい身だしなみの確立	・正しい身だしなみの習慣を身につけさせるため、日常的に声掛け指導を実施する。	身だしなみが気になる生徒が若干名いたが、声掛け指導を徹底した。	ネームプレートなし、袖ボタン外し等、細かい部分で気になる生徒への声掛け指導を徹底した。	4	声かけ指導の徹底を図るとともに、教員自身身だしなみを整えることを徹底する。
		・交通マナーの遵守	・交通事故「0」を目指し、正しい登下校マナーを身につけさせる。	吉情が数件入ったので、見回り指導、声掛け指導を徹底した。交通事故の被害と加害は「0」である。	交通事故4件(昨年度8件)発生。無事故無違反ラリーの成果があったように感じる。	3	無事故無違反ラリー、交通安全教室等、規範意識を高めさせるとともに、見回り指導を実施する。
	生徒会活動の活性化	・生徒主体の活動	・生徒会活動や学校行事などが、生徒主体で企画、立案、実行できる手助けをする。	生徒会主体の目安箱を設置し、生徒から意見を吸い上げることができた。	目安箱により生徒の意見を吸い上げることはできたが、生徒主体での企画・立案には及ばなかった。	2	教員主体から脱却し、生徒主体での活動を実践させる。
	・部活動の活性化	・充実した学校生活が送れるよう、活動日や活動内容などを見直す。 ・3年間精励した生徒、貢献した生徒に対して卒業時に顕彰する。 ・ボランティア、演奏会など、地域への活動範囲を広げる。	一宮七夕祭りを始め、文化部による地域貢献活動は成果を上げた。	週1日以上の日休日を設けることができた。高校総体尾張支部4連覇を達成するとともに、文化部の地域貢献活動は成果を上げた。	4	大会結果だけでなく、清掃活動やボランティア活動など、更なる地域貢献を実施する。	
健康管理の徹底	・心身の健康意識の向上	・定期的保健だよりを配付し、生徒や保護者に情報提供と協力を得る。 ・相談室開室日を定期的に知らせ、相談による心の安定した日常につなげる。	9月の保健だよりは、新しい業務が複数加わり、発行する余裕がなかった。さらなる事前準備を要すと感じた。また、スクールカウンセラーと連携し、生徒・保護者・教員への相談室開室日のお知らせを工夫した。	保健だよりは、掲載内容の工夫を試みたが、1月以降は、新型コロナウイルス感染症の予防啓発の掲示物や文書に対応に従事した。また、相談室の運営は、落ち着いた実施できた。	3	急な新型コロナウイルス対応時に、迅速かつ詳細な情報収集を心掛け、予防啓発を工夫する。また、相談室利用に関しては、活性化に向けて、カウンセラーや教職員との連携充実を実施する。	
進路課	妥協のない進路選択	・進路行事の連携と意識づけ	・継続的かつ明確な目的を持った指導により、3年間の熟慮の結果として進路選択をさせる。	3年生向けの系統別進路保護者説明会は業者を利用せず、自前で大学等の招致を行ったため、生徒が希望する、あるいは生徒に希望させた上級学校のラインナップで開催でき、例年に比べて一定の成果があった。	進路ファイルを導入したことにより、各進路行事の連携を意識させることができた。また、配付資料や外部ガイダンスについても、その意義や活用法を進路通信に乗せたり、担任に説明したりすることによって、より有意義なものにすることができた。	4	新型コロナウイルスの影響で実施できなかった第3回大学見学バスツアーや、進路課春季課題などを、もう一度練り直して、より優れたものにするための工夫を加える。
		・多様な入試制度の活用	・進路検討委員会を定期的に行い、更なる難関大学への挑戦を促したり、取得した資格を活かした入試方法を提案したりするなど、進路実現のための方法を研究し提案する。	定期的な検討会を開催することで、各種模擬試験の結果を共有することができ、担任だけではなく複数の目線からより良い進路指導ができています。	幾度となく進路検討会を実施したことによって、生徒一人ひとりにあう進路先や受験方法を提案することができた。ただ、進路検討会が場当たり的な感には否めず、計画的に行う必要性を感じた。	3	年間計画に進路検討会の実施を入れ、これを柱にして、各クラスや教科担当で進路指導のスケジュールを立てやすくする。
	・就職試験対策の強化	・就職試験対策の補習により基礎学力の定着を図る。また、面接試験において加点となるような面接指導を実施し、全員が第一志望の企業に合格できるようにする。	今年度は初めて進学補習と合同で夏季就職補習を行った。相乗効果も期待したが人数が多いことから細部にまで目が行き届かなかったという反省がある。来年度以降は、より成果の上がる方法を模索していきたい。	進学希望者と合同で補習を実施することの難しさを痛感したが、就職希望者に対しては臨機応変に指示し、就職試験に合格させるための充実した指導ができた。	4	限られた人員の中で進学希望者とのバランスを見ながら、最大限に効果が上がるように補習や面接指導を実施し、全員が第一希望の就職希望先に内定が得られるよう指導する。	
広報課	情報発信の充実	・ホームページや学校案内等を通じて、本校の魅力を発信	・ホームページや学校案内を充実させ、本校の取組みや魅力を発信する。 ・オープンスクール、入試説明会等のPRを強化する。	ホームページの更新不備や誤記の対処をした。	ホームページで行事の動画を配信し、生徒たちの生き生きとした姿、本校の活気を発信できた。また、オープンスクール、入試説明会等の動員増加が果たせた。	3	ホームページ等、さらに見やすく魅力的なものにしていく。また、広報行事を充実させていく。